

X線TV検査

X線を照射し人体を透視しながら検査を行う装置で、造影剤による胃や腸のX線透視検査を始め、内視鏡やカテーテルを使った検査や治療を行うなど、呼吸器・消化器領域で多目的に使用されます。

嚥下造影検査(VF)について

当院では、嚥下障害が疑われる患者さまに必要なに応じて、VF（Video fluorography）を実施しています。造影剤を飲み込んでもらい、口腔、咽頭、食道の器官の動きをX線透視下で評価します。VFは嚥下障害の補助的診断法の中で最も有力な情報が得られる検査法です。

VFに使用する検査食

ゼラチンゼリー、水、とろみ水、ピューレ状（ミキサー食）、クッキーなど症状に応じて使用します。

VFに関わるスタッフ

- **医師**：検査の流れの指示、検査の評価、機器操作、説明、方針の決定。
- **言語聴覚士**：検査の流れを作り、評価、方針を医師と一緒に考える。事前に嚥下評価を実施し、検査で使用する食形態を考え、医師に情報提供をする。検査結果を踏まえて、今後のリハビリ方針を決定する。
- **管理栄養士・調理師**：VF用の検査食を調理する。バリウムを混ぜたゼリーなどを作り、飲み込みの評価に必要な様々な食形態の検査食の調理を行う。
- **診療放射線技師**：X線を用いて検査を行い、飲み込みの様子を動画として記録する。

実際の検査法

- バリウムを混ぜた食材を食べてもらい、X線透視下で飲み込まれていく食材の状態を確認することで、咽頭残留の有無を確認します。

その他、嚥下造影で困ったことがあれば近くのスタッフにお声かけ下さい。

